

令和3年度 学校経営計画

白山市立北陽小学校
校長 紺村 由紀子

白山市の教育

～健康・元気・笑顔～ 「ふるさと白山市を愛し、誇りに思える人づくり」(白山市教育大綱)

- ①郷土愛を育む教育の推進
- ②確かな学力の形成と教育環境の整備
- ③健康な心と体を育む教育の充実

【白山市教育委員会基本理念】「ふるさと白山の未来を拓くひとを育てる～地域とともに～」

S D G s 未来都市にむけた取組の推進を通して基本理念を実現するための

学校教育基本方針 「感性を豊かにする教育」

1 経営理念

チーム北陽 笑顔いっぱい、みんなが元気な学校づくり
～自律と創造 子どもも先生も学校を楽しもう～
「そろえる、やりきる、たしかめる」

急速に変化し予測困難な時代において、一人一人が持続可能な社会の担い手として、新たな価値を生み出し、たくましく「生き抜く力」が必要である。そのために、子供たちには、様々な力や心が必要であり、それらは学校の学びや体験を通して多くの感動や喜びを味わい、教師や友達など多くの人との関わりを通して社会の中で生きる基本を学んでいく。学校は一人の社会人として自立していくためには欠かせない教育の場である。そんな場としての学校には、学校が大好きで元気な子供たち、笑顔と活力にあふれる教師たちがいることが大切である。つながり高め合う中で、たくましく未来を切り拓いていく子供の育成を目指して、「チーム北陽 笑顔いっぱい、みんなが元気な学校づくり」を目指し教育活動を進める。

①学校教育への自負と誇り

学校は、子供たちの成長に大きく関わり、子供たちを社会に送り出す基盤作りをしている。私たちは学校教育に自負や誇りを持っていきたい。

②大人もつながり、高め合う

教育活動を進めるにあたり、協力・協働による組織的な学校運営が大切である。学年の横のつながりと6年間を見通した縦のつながりを意識し、主任を十分に機能させ、取り組みの焦点化を図る。

③凡事徹底

朝元気に登校し、学校が終われば「今日も楽しかった。学校に来て良かった。」と充実感を持って家路につくような、当たり前の学校生活が行われることが何より大切である。そのためには、小さなことでも取りこぼすことなく、当たり前のことを大事にする。

④率先垂範

教育とは人が人を育てることである、子供たちは関わる多くの人から影響を受ける。教師の姿そのものが一番の教材と言え、その意味で子供の範となる姿を見せることが大事である。

2 教育目標

「つながり、高め合う北陽っ子」

新しい時代に必要となる資質・能力の育成のため、ひと・もの・こととつながり、自らを高める「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。

カリマネにより、教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を図る。S D G s、手取川ジオパークを中心とした「ふるさとを誇りに思う子」の育成を目指す。



3 学校経営目標

(1) 児童に関する目標

- ①「知恵を出し合い高まる子」 すすんで考える子・学びを深める子
- ②「前向きな子」 自分からできる子・やさしくかかわる子
- ③「きびきび動く子」 自分から動く子・心も体も元気な子

(2) 教職員・学校組織等の望ましい在り方

- ①温かさと厳しさを持って児童理解に努める教職員・学校
- ②全児童の学力向上に取り組む教職員・学校
- ③保護者や地域、関係機関との連携を深める教職員・学校
- ④職員同士が組織的につながり高め合う教職員・学校

4 今年度の重点目標

(1) 組織的な学校運営 **最重点**

“そろえる、やりきる、確かめる”で教師力の向上を図る

自らの役割と専門性を最大限に發揮し、チームとしての協働に誇りを持つ

① 「チーム北陽・チーム学年」

- ・そろえることで、教師個人の力に頼らず、全ての子どもに力を付けていくことができる。そろえることが、子ども、保護者の安心感につながる。
- ・R P D [そろえる]→C 見える化して[確かめる]→D [やりきる]→A新たに[そろえる]
- ・各人が責任を持つ+チームで対応する。評価規準を高いところでそろえる。

② 「危機管理」

＜危機管理のさしせそ＞

最悪を想定し、慎重に、すばやく、誠意を持って、組織で対応

＜報告はソーセージ＞

早く、正確に、事実を報告 「情報は爆弾、記録は証拠」

- ・報告・連絡・相談等の情報の迅速かつ確実な共有化によりチームで動く
- ・起案システムの徹底。迅速かつ効率的な運営、複数の目で確かめ、信頼を得る
- ・外部連携を進める（助けてもらう）。県・市教育委員会、県教員総合研修センター・市教育センター、児童相談所・市子ども相談室、市発達相談センター・特別支援学校専門相談、警察、医療機関
- ・トラブルが大きくならないために、即日解決を目指す、困ったときほど早く相談 保護者への丁寧な連絡は必要、事後の報告を忘れずに
- ・相手がいるけがやトラブルは両家に連絡する。特に首から上のケガには丁寧に対応する。（歯・目・頭・首）

③ 「人材育成」

- ・大量退職、大量採用が続く中、県育成指標に基づき、10年で一人前に育てる。

- ・教師の「当たり前」を言語化し、次の時代に伝える。

- ・ミドルリーダーの育成

運営（分掌主任）会議・主任（学年主任）会議による組織的学校運営

運営会議→分掌会議→職員会議→主任会議 校長会議→運営会議→学年主任会議

主任の機能化：各主任が取り組みを焦点化し、リーダーシップを發揮

分掌副主任で次のリーダーを育成

見通しを持った分掌会議→効率化と担当の育成

- ・「学び続ける教師」：若手もベテランも、ともに育つ学校

「若手早期育成プログラム」

計画的に、日々の教育活動の中で若手を育てる

月1回「北若ゼミ」（I・II・III）、短時間相談タイム（I・III）、全体研（全員）

「チーム学年」

複数の目で子どもを見取り育てる、毎週の学年会議で効率的・効果的に教材研究
「学年内一部教科担任制」

教材研究の効率化・複数回の授業実践で教師力UP

校内研究、相互授業参観、教材研究相談で日常的に若手を育てる

④ 服務規律の遵守と心身の健康管理による活力ある教職員集団を形成する

信用失墜行為は起こしてはならない。学校不信・教育不信につながる

（体罰・暴言、わいせつ、パワハラ、セクハラ、交通事故、飲酒時の振る舞い、個人情報漏洩等）

(2) 確かな学力の育成 **最重点**

「魅力ある学校づくりは、学習指導と生徒指導の両輪」

1時間1時間の授業を大切に。校内研修でレベルアップ！

「いしかわ学びの指針12か条（学びの12か条+）」

☆カリキュラムマネジメントの推進・社会に開かれた教育課程＝発信！

「主体的・対話的で深い学び」

“教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を図る”

カリマネの柱：SDGs「ふるさとを誇りに思う子」の育成



社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、3つの力をバランスよく育む。

- ・3つの資質・能力の育成にむけた授業実践
 - 実際の社会や生活で生きて働く「知識・技能」の習得
 - 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」
 - 学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養
- ・教科横断的な視点に立った資質・能力の育成
 - 学んだことを他教科でも活用する
 - 学校図書館司書との連携→授業で本活用
- ・学期ごとのP D C Aサイクル「改善・開発」
- ・コミュニティスクール立ち上げのため、地域と連携した外部人材の発掘・活用

☆良さの共有…校内には素晴らしい実践がたくさんある

「北陽オリジナル授業デザイン」をもとにした授業展開

教師の評価規準を高いところでそろえ、授業力向上

学年会議の板書・授業ノート交流で、切磋琢磨

「良い授業ノート・自学ノート」掲示、良さの見える化

相互授業参観で「授業を見る力」UP

① 「学習の基盤作り」

課題解決集団としての学習集団づくり→授業力向上→学力向上

学習規律の確立（ルール）と温かい学級経営（自己有用感：聴き合い、認め合い）

予鈴で学習の構え意識を持つ、聴き合い、学び合い、一生懸命をバカにしない学級

② 「授業のユニバーサルデザイン化・アクティブラーニング化」

「既習を使えばできそう」という見通し

構造的な板書、考えの視覚化、I C T活用（書画カメラ・デジタル教科書・タブレット）、子どもが動く授業構成の工夫、子どもが活躍する場を増やす

ねらいに迫るための学習形態の工夫、深めるための問い合わせ返し

子どもの言葉でまとめ・ふりかえりに5分確保、算数は30分でまとめ適用題

学びの自覚化「わかった！できた！みんなと勉強して良かった」で自己有用感UP

③ G I G Aスクール構想の推進 1人1台タブレットを色々な教科・場面で使ってみる。子どもが「使いたい」という授業を目指す（週案にGマーク）

④ 学習内容の定着：各学年に応じた家庭学習の習慣化

「10分×学年」の家庭学習、「素敵な自学ノート・授業ノート」

学年のめあてにあった読書「家読の日」「週末読書」「本バックに図書館の本」

⑤ 過去問やチャレンジシートの意図的・計画的・組織的な活用

・単元末テスト全員90点を目指す

・授業の中に活用問題。学力調査・活用問題80点を目指す

(3) 業務適正化に向けた取組を進める **【最重点】**

「教育の質を落とさず、子どもと向き合うための働き方改革」

時間外勤務時間が月45時間以下・年360時間以下、月80時間超えゼロを目指す。

「やめる・へらす・かえる」で教育活動の質を向上させ、効果の最大化を図る。

・留守番電話(18:30~7:30)

・週1回の定時退校日(月曜日)

・最終退校時刻(午後7時半)

*それより遅くなる場合は管理職に業務内容と最終退校時刻を報告

・育友会総会、学校評議員会で周知

・学校評価に位置づけ

・校務支援システム導入(2学期から)、年休10日以上取得努力

・一部教科担任制、ペーパーレス職員会議、放課後の時間確保、整理整頓、

学習したことを掲示、実施後即反省&次年度起案を主任会議で確認…

(4) 豊かな心の育成…自己有用感を高める=いじめの未然防止につながる

① 生徒指導の三機能を活かした授業、学校生活

(自己存在感、自己決定、共感的人間関係)

・厳しく温かい学級経営=学習集団づくり（ルールと自己有用感）

・特別支援教育の視点を入れた生徒指導

・学校全体で、良さを見取り、ほめる・認める声かけ

・発達障害特性を学び、困り感を探すことから合理的配慮へ。

関わり方を教える、良いモデル提示、その子にあった指導・支援の共有・継続

- ・終わりの会での「今日のキラリさん」、良さ見つけ→自己有用感UP
- ・品性を育てる、丁寧であたたかい言葉
- ・組織的な生徒指導「あいさつ、服装、時間、言葉づかい、そうじ」
- ② 人間関係力や自己有用感を高める話し合い活動の充実
 - ・学級会で、「考え、判断し、行動する力」「折り合いをつける力」UP
 - ・児童会活動の自主的、実践的取組で自己有用感UP
- ③ 相手の気持ちを想像する力を育てる道徳と読書の推進
 - ・考え方議論する道徳授業、公開・学級懇談会で話題づくり
 - ・気持ちの見える化 教室・廊下に「道徳コーナー」(学びの足跡)
 - ・司書と連携「学年のめあてにあった本」選び、一人平均150冊

(5) 健やかな体の育成…心と体を強くしよう

- ① 基本的な生活習慣の定着にむけた取り組みの充実と家庭との連携
 - ・早寝・早起き・朝ごはん・適度な運動→免疫力UP
 - ・ネットのマナー・付き合い方、家庭のルールを守る
- ② 体育の時間での運動量の確保、基礎的な体力の向上
 - ・「スポーツチャレいしかわ」「1校1プラン」

(6) 家庭・地域との連携

- ① 「安全基地」としての家庭づくり支援
 - ・「早寝・早起き・朝ご飯」生活リズムを整える
 - ・自立に向けた見守りと受容
 - ・読書の量と質の向上、家読の日・週末読書3冊、調べ学習
- ② 外部人材を活かした体験的な学びの場
 - ・SDGs 素敵発見！「白山手取川ジオパーク」
地域の魅力を発見・探究する総合的な学習「調べてまとめて伝えよう」「学校を飛び出して外で学ぼう」
- ③ 教育方針の積極的な発信
 - ・教師の思いを伝える、1ヶ月1回以上の学校・学年・学級便り
 - ・週3回以上HPで取組を紹介、新聞報道の依頼、回覧板で学校だより
- ④ 幼保小連携、小中連携部会を中心に縦の学びを進める
 - ・幼保交流、スタートカリキュラム、小中交流授業参観、ピアカウンセリング
高学年一部教科担任制による中1ギャップ解消



(7) 授業力・教師力の向上

- ① 週案作成で「教育課程経営力・構想力」をつける
 - ・教科横断カリキュラムマネジメントの推進→質の向上・学習効果の最大化
- ② 学年を中心としたOJT体制の推進と校内研修の充実
 - ・毎週の学年会議の充実
 - ・若手研コーディネーターを中心に企画・推進、メンターによる相談
 - ・金沢大学連携、学力サポートプログラムの効果的な活用
 - ・一人年間1回以上の研究授業、外部講師招聘、3学期は次の学年への準備
- ③ 「学びのロードマップ」によるPDCAサイクル
 - ・毎学期の活用問題で伸びを確認→改善策

(8) 安全・安心な教育環境に努める

- ① 整然とした学習環境の維持、教育効果のある掲示物など教育環境の充実
 - 「天下一品の子を育てるには、天下一品の教育環境から」
- ② 好ましい人間関係や言葉遣い、言語環境の整備、すき間時間の指導
- ③ 安全点検の徹底や保護者、地域と連携した危機管理体制の強化
- ④ 学校のいじめ防止基本方針に基づいた取り組みの確実な実践

毎月のいじめ調査は、個別に聞き取り、対応までカードに書き込んで、全てを提出。一覧に名前や対応を必ず打ち込む。一覧に記入し、いじめ問題対策チームで判断し、保護者に連絡し、3ヶ月後まで観察する。教師のアンテナを高くする。
- ⑤ 想定される様々な危機（学校事故、感染症、食物アレルギー等）に対しての未然防止（校内研修を含む）と初期対応、関係機関との連携
- ⑥ 信頼される教師像の確立。信用失墜行為は絶対しない。子どもの一生にかかる。